

Catalogue No.  
20693-13

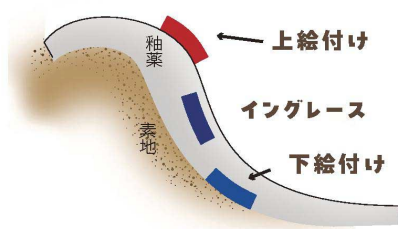
## 絵付け(えつけ) | 絵の具の位置で変わる手法

### 美しさの決め手は絵付け

絵付けが施される器は、顔料を用いて文様や絵柄を描きます。顔料は、酸化金属や鉱物を細かく砕き、水や媒剤と混ぜて絵具状に調合します。繊細な筆運びで描く手描きや、型紙を使って彩色する方法など、その技法はさまざま。色の重ね方や線の太さ、描く順序のわずかな違いが、焼成後の発色や風合いを大きく左右します。一点ごとに異なる表情を見せるのも、絵付けの魅力です。

美しい発色の絵付けの反面割れやすかったり、薬品の影響を受けたりすることもあります。

絵付けには主に、上絵付、イングレース、下絵付の3種類があります。それぞれの違いは以下の通りです。



#### 上絵付け

本焼成した後に絵付をし、再度約800℃の低温で焼いて、絵具を定着させた絵付。絵具は釉薬の上に乗っている。

#### イングレース

本焼成した後に絵付をし、再度高温で焼いて絵具を釉薬の中に沈み込ませた絵付。絵具が釉薬の中にあるので劣化や成分の溶出はない。

#### 下絵付け

素焼き後の素地に直接絵付をした後、釉薬をかけて本焼成した絵付。絵具は釉薬の下にある。

### 絵付け屋さんのひとこと

COMMENT

それぞれの器の特性に  
気をつけて、  
丁寧に作業します。



### 上絵付けの見分け方

#### 転写

上絵具つきのシートを  
貼り付けたもの



#### 手描き

上絵具で  
手描きされたもの



#### 金彩・銀彩

純金やプラチナの  
絵具で描かれたもの



### イングレース

#### 転写

転写図案を高温で  
釉薬層へ沈み込ませたもの



#### パット印刷

凹版のインクをパットで  
素地へ写し取ったもの



#### 銅版紙

銅版の文様を紙経由で  
素地へ写し取ったもの



### 上絵付けの種類



釉薬の上に彩りを添える上絵付け。精密な文様を均一に再現する「転写」は、滑らかで整った表情が魅力です。一方、職人の息遣いが宿る「手描き」は、筆跡や絵具の厚みが生む一点物の奥行きが外観から伝わります。さらに「金彩・銀彩」は貴金属の輝きで格調高さを演出。いずれも釉薬の層に絵具が重なるため、光をかざすと浮かび上がる微かな立体感が、表面に焼き付けた上絵ならではの贅沢な証となります。